

鹿児島を代表する企業のトップに伺う



株式会社 シンケン 代表取締役

迫英徳氏

1950年鹿児島生まれ。家をつくることを仕事にしたいとの思いで、基礎・屋根・建具・大工・現場監督・営業などさまざまな建築に関わる職種を経験し、1977年にシンケンを設立。家のコンセプトを施主に明快に提案する「迫メソッド」によって「シンケンスタイル」を確立。現在までに1100棟を超える家づくりの現場に関わる。

住まい手とつくり手が、互いに喜びを分かち合う家づくり

長い時を経て住まい手に愛され続ける住まいとは、「お客様との価値観の共有」という考え方のもと、居心地のよい住まいづくりへの挑戦を続けるシンケン。代表取締役の迫英徳さんに伺った。

「実際に暮らし始めてから毎日を心地よく暮らせるか、また、長い時を経た後も愛着を持って住み続けることができるか、イメージしてみることが一番大切なことではないでしょうか。」



株式会社 シンケン
代表取締役 迫英徳氏

鹿児島を代表する企業のトップに伺う



居心地のよい住まいの追求

「シンケンスタイルは、プロとしての誇りをもった家づくり」

「今年で創立33年目というのですが、家づくりにおいて「こだわってこられたこと」はどんなことでしょうか。」

創業当初から、自分自身が「いい」と思うもの、納得出来るものをつくりたいと思って、理想の家づくりのあり方を模索しながらやってきました。そうして試行錯誤を繰り返しながら導き出した私の答えは、「家づくりは、住まい手と」

「シンケンスタイルは、プロとしての誇りをもった家づくり」

「今年で創立33年目というのですが、家づくりにおいて「こだわってこられたこと」はどんなことでしょうか。」

創業当初から、自分自身が「いい」と思うもの、納得出来るものをつくりたいと思って、理想の家づくりのあり方を模索しながらやってきました。そうして試行錯誤を繰り返しながら導き出した私の答えは、「家づくりは、住まい手と」

「お客様に合わせることに力を注ぐのではなく、自分達が独自の家づくりのスタイルを見出し、それを表現することが出来れば、自然とそのあり方に賛同して下さる方が集まっていただけるのではないかと。最初は数が少なかったとしても、ゆっくりと共感の輪を広げていくことが出来たらどんなに素敵だろう、そう考えたのです。」
そのような考え方があり、私達は、つくり手が専門家としての誇りを持って、持っている限りの創造力を駆使し、お客様の意向を汲み取った提案を積極的にしながら家づくりを進めていくということに非常にこだわっています。本当に住まい手の立場に立った居心地のいい家をつくるにはどうあるべきかという考えが「シンケンスタイル」ということではないかと。
はい。安易にお客様任せにせず、プロとしての自覚と責任を持って、お客様と語り合いながら家づくりを進めていく。平均年齢29歳と、若い社員が多い会社です。実際の家づくりの中では、お客様のご指導を仰ぐ場面も多々あるかと思いますが、しかし社員達は、そのような家づくりの理想を追い求める気持ちは、そのように主体的に考えながら行動する様にいつも言い聞かせています。

「理想の住宅は、情愛を育て、自然と共生する住まい」

「シンケンスタイル」が追い求める理想の住宅とはどのようなものなのでしょうか。

近年、住宅に対する社会の意識が向上し、耐震性能や断熱性能、安全な素材といった、住まい手が安心して暮らすための基本的な性能は以前に比べて飛躍的に向上しています。しかし、それらを満たせば良い住宅かと言えはそうは思いません。

私達が考えるいい家とは、その家に住むことで家族が和やかになり、居心地がいいと感じてもらえるような家。私は、情愛を育てる家、と言っています。それは、素材はもちろん、人の目線や動線、部屋と部屋との繋がり、空間の構成など、どううまく組み合わせることで成り立ちます。どういう風人が動いて、どういう風に家族の心が触れ合う機会を持てるか。そのことをいつも意識しています。また、居心地の良さは自然にも大事要素です。家の中と外の庭が緩やかに繋がっていて、四季の移り変わりとともに太陽・風・雨・樹木・草花などが身近に感じられる家。そんな家には自然と愛着が湧き、いつまでも大切にしたいと思うものです。

「お客様の資産になるものだから、大切に扱いたい」

「多くの住宅会社が大工仕事を外注している中、社員大工による家づくりを行っておられます。家にお客様にとって大切な資産となるものです。特にシンケンの家は、最後に壁紙などで骨組みを覆ってしまう一般的な家とは異なり、建物の骨組みの大部分がそのままあらわしに仕上げられる「隠し」をしない家。自分達の手で、大切に丁寧に組み立てていきたい。そんな考えから、建物の骨組みとなる構造の組み立て（建て方）は「フレーム」とよばれる社員が行います。現在「フレーム」は40人ほどですが、競い合うように仕事に取り組み、更に高度な大工仕事を任せられる者も増えてきました。」

また、このような大工仕事以外にも、家づくりには、基礎・電気・水道やガスの配管など、多くの業者さん達の協力が必要です。これらの現場でも、建物の骨組みと協力業者さん達を、「皆が現場」という舞台のスターという意味を込めて、「オルスタズ」と呼んでいます。オルスタズでは家づくりの仲間としての意識の共有を図るため、月一で現場の問題点を語り合う勉強会を開催しています。

このような取り組みは、勿論、いい家づくりを追求するためのものなのですが、もっと直接的には、お客様に家づくりの過程を楽しい思い出にしていただきたいという思いがあります。ワクワクして現場に挨拶したのに、散らかりたり、作業者が口々に挨拶もありません。おかげさまで、フレーム達のキビキビとした動きや、現場の清掃員、元気な挨拶、また、オルスタズの皆さんの親切な受け答えなどは、現場を目にする方々から好感を持って受け入れられているようです。



現場には必ず安全確認を徹底してから入る

オルスタズの会議の様子

「家づくりで一番大切なものとは」

「シンケンが開催する様々なイベントで多くの来場者があると聞いています。」

この1年では、お引渡しの住宅を一般の方に公開する「完成見学会」を33回開催し、その総来場者数は1万人程でした。また、すでに入居済みの住まいを訪ねて暮らしぶりを見せていただく「バス見学会」は30回開催。常に定員をオーバーする申し込みがあり、1400人を数えました。さらに、住まいづくりのプロの視点から学ぶ「住まい教室」には500人の参加があり、唯一の展示場である鹿児島市与次郎ヶ浜の「杉の家モデルハウス」には3000組を超える方々のご来場をいただきました。

このように、私達はシンケンの姿勢や価値観をじっくり理解していただくための機会を大切にしています。おかげさまで今年はこれを総計すると延べで2万人を超える方々に足を運んでいただきました。私達の取り組みが徐々に理解され、共感の輪を広げているものと捉え、嬉しく思っています。



バス見学会の様子

「ホームページ上でも先進的な取り組みをさせていただきます。」

今年6月より始まった「シンケンスタイル・コミュニティ」は、シンケンの住まいに興味をお持ちの方、住まい手の方、シンケンのスタッフの3者が、さまざまな話題を交換出来るネット上の交流の場です。建築中の方や住まい手の生の声が写真付きで投稿されるため、「シンケン」という会社の本当の評判を知ることが出来たとご好評をいただいています。私どもの家づくりに対する生の声を知りたいという方は是非ご覧いただければと思います。

「最後に、これからマイホームをお考えの方にメッセージをどうぞ。」
シンケンで建てる建てる建てるに問わず、依頼する会社がどのような家づくりをしているか、じっくりと見て、出来ればその会社の住まいを実際に数多く体験してみることが大切です。多くの方に「住みたい」と思える、一番の大きな買い物になりますから、この過程を省略して、住まい手つくり手の意思疎通が十分でないまま家づくりを進行させることは、取り返しのつかない事態を招きかねません。

住まいは、建てた後何十年という付き合いになるものです。新築時の美しさも大事なのですが、実際に暮らし始めてから毎日を心地よく暮らせるか、また、長い時を経た後も愛着を持って住み続けることができるか、イメージしてみることが一番大切なことではないでしょうか。

県外・離島から帰省の方にオススメ!!

1/2⑤~1/11⑥「土地探し相談会」をモデルハウスにて開催!!

与次郎ヶ浜モデルハウスは、大晦日・元日を除き営業致します。

土地探しからの家づくりをご検討の方にオススメの「土地探し相談会」です。先着50名様に「シンケンスタイル不動産 トラの巻」と「住まいの写真集DVD」をプレゼント!

与次郎ヶ浜モデルハウス見学・相談会のご予約は不要です。

与次郎ヶ浜モデルハウス TEL: 099-253-6888

株式会社シンケン www.sinkenstyle.co.jp

▶ 本社/シンケンスクエア
〒890-0056 鹿児島市下荒田4-49-22
TEL: 099-286-0088

▶ シンケンワークス
〒892-0871 鹿児島市吉野町3506
TEL: 099-244-2258

▶ 与次郎ヶ浜モデルハウス
鹿児島市与次郎2丁目 KTS住宅フェア内
TEL: 099-253-6888

SINKEN STYLE

シンケン社員の住まいをご紹介します。

1997年
完成不動産・お客様相談窓口の
松山さんち 01

当時、革新的な住宅であった「フォルクスハウス」を、鹿児島でいち早く採用した松山さんち。外壁の黒(正確にはチャコールグレー)は、以来シンケンの住まいのイメージカラーとなっています。完成時は、日本中の住宅広告で写真が使われました。

1997年
完成シンケン代表の
迫さんち 02

「雑木林に暮らす」は、シンケンの家づくりの大きなテーマ。太陽、風、雨、樹木や草花など、四季の移ろいや自然の摂理に学び、それを日々の暮らしに活かしていく。シンケンの社員たちが常に追求していることです。

1998年
完成設計室の
二ノ方さんち 03

なぜか乗り物マニアが集まっている設計室。なかでもリーダーの二ノ方さんとはとりわけ。自宅のプランを考える時、何よりも先に「いつでも家の中から愛車が眺められること」にこだわったのは当然のことかもしれません。

2001年
完成総務の
森田さんち 04

社員たちのお母さん的存在の森田さん。そのご主人の趣味は木工。家中の家具を自由自在に造ってしまうその腕前は、とても家を建ててから始めた趣味とは思えません。家にギャラリースペースを設けてからは知人からの制作依頼も急増したとか。

2002年
完成営業の
久保田さんち 05

シンケンの住まいで採用することが多いオープンなアイランドキッチン。作業が見えるから、家族が自然と集まってきてお手伝いをしたくなる造り。会話を楽しんだり、テレビを見たりしながら作業が出来るので、家事が楽しくなるのです。

2002年
完成営業の
吉岡さんち 06

生まれも育ちも大阪だった吉岡さん。奥さんの帰省先で目の当たりにしたシンケンスタイルに惚れ込んでしまい、気がつけば鹿児島でシンケンの社員に。住まい手としての暮らしの発見をお客様にお伝えするという天職に出会えたことに感謝する日々だそう。

2004年
完成ユーザーズサポートの
小田さんち 07

仕事と同じくらい(?)ラジコンが大好きな小田さん。休日のラジコン制作が何よりの楽しみとはいえ、ユーザーズサポートという仕事柄、自宅を使つての床板や水回りのお手入れ法の研究にも余念がないことは言うまでもありません。

2009年
完成営業の
橋本さんち 08

愛する2人の子どもの環境を最優先して土地選びに取り組んだ橋本さん。選んだ場所は、既にお隣に2軒のシンケンの住まいが建っていた土地。なるほど、子ども達は、自然を愛する心優しいお隣さん達に見守られながら、すくすくと育っているようです。

2009年
完成営業の
川崎さんち 09

元大工の川崎さんは大工時代に材料にこだわりにこだわって建てた大きな家を買却しての2度目の家づくり。その理由は「プランニングの重要性に気づいたから」。コンパクトながらも大勢のお客さんを招待できる設計には大満足の様子です。

家をつくる会社の社員が、自分の会社で家を見て、暮らしの中で
気づいたこと・考えたことを各々の仕事にまた役立てていく

「親子のコミュニケーションをより身近なものにするには、どういった間取りがいいのだろう」とか、「自然の力を上手に利用して、冬暖かく夏涼しく過ごすにはどうしたらいいか」とか、「街中でもレースのカーテンを使わずに、四季や時間の移ろいを感じながら暮らすことができないものか」とか、そんな一つ一つを、丁寧に時間をかけて検証していくこと。

家づくりを生業(なりわい)とし、プロとしての自覚を持つ者なら当然のことかもしれません。でも、32年間に渡りそれを実践し続けてこれたことを、私達は誇りに思っています。

今年も一年、どうもありがとうございました。来年も、シンケンには真面目に家づくりに取り組んで参ります。

2009年12月31日 シンケン社員一同



GOOD DESIGN
AWARD 2009

シンケンの新しい住まい「箱(すぎ)BOX」は2009年度グッドデザイン賞を受賞しました。



株式会社 **シンケン**
SHINKEN CO. LTD.

〒890-0056 鹿児島市下荒田4-49-22

お問い合わせ・資料のご請求は下記まで
099-286-0088

受付時間:月~金(祝祭日除)10:00~17:00

→ 資料請求はホームページからも承っています www.sinkenstyle.co.jp